

論壇

英申請、さらなる拡大へ

英国がTPP（環太平洋連携協定）への参加を正式申請した。日本が中心となってまとめたきたアジア太平洋地域11カ国の地域経済連携の枠組みは、新たな参加国を加えてさらに拡大する可能性が膨らんできた。

TPPは当初はシンガポールやニュージーランドなど小さな国が交渉を進めてきた経済連携協定だった。そこに米国が参加すると表明してから、アジア太平洋の多くの国が参加を表明した。オバマ政権は中国への対抗も含めたアジア太平洋の経済戦略の重要な柱とし

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

てTPPの交渉をリードしてきた。日本もそれに参加することが重要であると判断して、安倍内閣が交渉参加の決断をした。

オバマ大統領からトランプ大統領に代わることで、米国はTPPの交渉から撤退していった。それでも日本が中心的な役割を演じ

はこぎ続けなければ倒れてしまう。通商交渉も同じで、それが止まると保護主義的な動きが強くなってしまう。そうした展開を防ぐためにも、交渉を続けていく必要がある。そうした意味では、TPPの交渉からトランプ政権が撤退した時、日本が踏ん張って交

渉を継続できたことは大きかった。TPPという世界最大規模の経済連携協定が確立したことで、経済連携のさらなる拡大が期待できるのだ。

TPPの新たな展開

て、なんとか残り11カ国で協定をまとめることができた。こうした経緯をよく覚えていた読者も多いだろう。その協定に英国が参加表明することで、新たな展開が始まることになる。

通商政策について昔読んだ本の中に、通商交渉を自転車に乗ることに例える記述があった。自転車

イギリスに続いてTPPに参加することに関心を示している国はいくつかある。タイもその一つだ。東南アジアではベトナムやマレー

シアはTPPに参加しているが、タイやインドネシアなどはまだ参加していない。TPPの流れでアジア太平洋での貿易が拡大すれば、タイやインドネシアなども参加を真剣に検討し始めるだろう。こうした国々が参加すれば、アジア太平洋の貿易はさらに拡大するだろう。

中国が意欲、米の出方は

TPPへの参加の意欲を示唆したもう一つの国が中国である。米国の交渉のリーダーであった時期はTPPに中国が参加できず、中国のアジア太平洋地域での影響力拡大を抑え込む狙いがあると考えられてきた。米国が撤退した中で、中国が参加意欲を示すということに、こうした流れを逆転させよう

とする中国の狙いが透けて見える。もちろん、国が経済に強く関与している中国がTPPにすぐに参加できるわけではない。TPPでは国営企業の活動に厳しい制限が設けられているからだ。ただ、今後の展開には注意しなくてはいい。

バイデン政権はTPPに参加することに慎重だ。海外からの輸入の増加に懸念を示す国民が多い中、積極的に自由化を進めることはできない。ただ、米中での対立が深まる中でアジア太平洋での主導権争いが激しくなると、そのうちも言っていられないかもしれない。TPPは米国にとってアジア太平洋地域での重要な布石になるからだ。今後の展開に注目したい。